

まなびや

【展示室A】教育ふくいの歴史

藩校と寺子屋



勝山藩校成器堂 (現・神明神社)



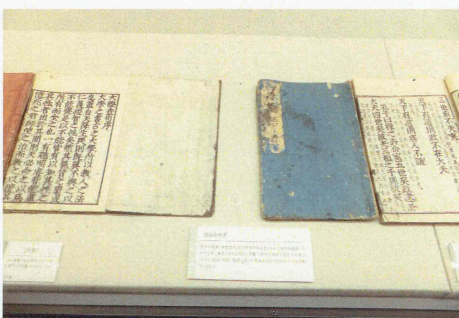
小浜藩校順造館の門 (現・若狭高校)

藩校は、江戸時代藩士の子

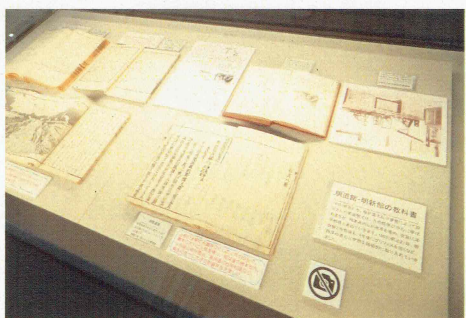
弟教育のために設けた学校で、主に儒学の教本を学ばせました。▼小浜藩は、福井で初めての藩校順造館(一七七四年)を開校し、礼儀の指導や学問の振興に力を入れました。▼福井藩では、16代藩主慶永(春嶽)が藩政改革の一環として文武の充実を掲げ、明道館を開設しました。橋本左内が学監心得に登用されて学制を改革、以後物産科、洋学科、さらに算科局、兵科局を増設し蘭書の購入などを大いに奨励するとともに、国内遊学の規定を整えました。▼大野藩明倫館では、適塾塾頭の伊藤慎蔵を招き、洋学に力を入れると、他藩からも学びに来るほどでした。

このほか、越前・若狭の藩校として、丸岡藩平章館、鯖江藩進徳館、勝山藩成器堂、府

中立教館があげられます。幕末期には、欧米の知識・技術を習得する動きがさらに高まり、福井の各藩は藩士を積極的に遊学させました。特に、福井藩では日下部太郎をアメリカに留学させ、その恩師グリフィスを招くなど、海外にも対象を広げました。



儒教の教本(大学、論語、孟子など)



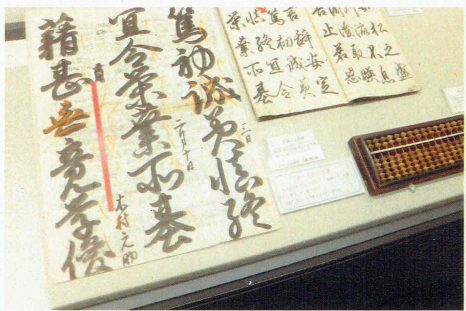
福井藩校(明道館・明新館)の教科書

寺子屋では

一般庶民の子弟を主な対象としたのが寺子屋です。越前・若狭においても、江戸時代五〇以上の寺子屋が設立されました。指導には武士や僧侶があたり、主に読み書き・そろばんを教えたようです。



寺子屋の図(明治期の掛図)



手習いの添削・江戸時代のそろばん

【企画展】予告

幕末明治

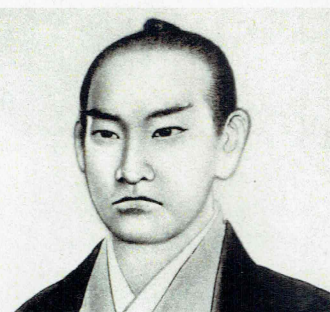
福井の教育

―藩校の教育改革―

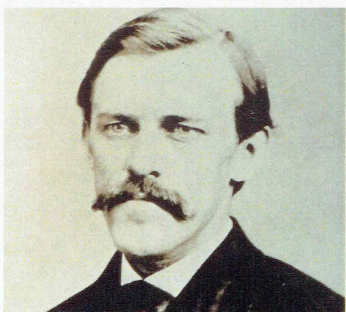
4月14日～6月3日

「幕末明治福井150年博」関連企画展示

洋学などを積極的に国内外に学ばせ、技術の習得や人材育成をはかった、藩校の教育改革を中心に紹介します。



橋本左内(明道館学監心得)



グリフィス: 明新館理化学教師